

令和6年度第1回八千代市環境審議会会議録

日時	令和7年1月28日（火） 午後2時00分～午後4時15分	場所	八千代市上下水道局庁舎2階 大会議室
議題	（1）会長・副会長の選出について （2）八千代市第3次環境保全計画の進行管理について （3）八千代市環境経営レポート（令和5年度実績）について （4）その他		
出席者	小倉 久子（学識経験者：元千葉県環境研究センター水質環境研究室長） 谷合 哲行（学識経験者：千葉工業大学先進工学部教育センター准教授） 馬上 丈司（学識経験者：千葉エコ・エネルギー株式会社代表取締役） 風岡 修（学識経験者：千葉県環境研究センター地質環境研究室主任上席研究員） 佐藤 孝之（事業者代表：八千代市農業委員会委員） 永瀬 良司（事業者代表：八千代市工場協議会 東洋佐々木ガラス株式会社 生産本部長） 橋本 慎一郎（事業者代表：八千代市建設業協会 副会長） 岡本 哲夫（市民委員） 柏木 米子（市民委員） 春田 洋一（市民委員） 以上10名		
公開又は 非公開の別	公開		
傍聴者	傍聴1名（定員5名）		
事務局	服部市長 加藤経済環境部長 石原経済環境部次長 環境政策課 8名 （高倉環境政策課長，萩野ゼロカーボンシティ推進室長，竹内副主幹，斎藤主査補，野島主任主事，横井主任技師，木下主事，吉田主事）		

事務局（高倉環境政策課長）

会議成立の報告・欠席委員の報告・マイクシステムの説明・傍聴人の報告

服部市長

皆さん、本日はご多用の中、環境審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

現在、本市では、八千代市第3次環境保全計画を進行中でございますけれども、その進捗状況として後ほど事務局の方から「八千代市第3次環境保全計画について」及び「八千代市環境経営レポートについて」報告させていただきます。

計画に沿っての業務が行われているかどうかを判定していただくのは、非常に重要でございます。

八千代市に限らず、現在、環境についての関心が高い中、計画を着実に実行するために、皆様方の忌憚のない意見をいただき、八千代市の環境保全について、前に進めていきたいと思っておりますので、本日はよろしくお願い申し上げます。

それでは、以上でご挨拶といたします。ありがとうございました。

事務局（高倉環境政策課長）

続きまして、本審議会委員は、今年度改選されております。そのため、初対面の方々もいらっしゃると思いますので、ここで、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

会議の時間に限りがございますことから、お名前と意気込みを簡単にお願いいたします。

それでは、小倉委員から反時計回りによりしくお願いします。

小倉委員

小倉久子と申します。千葉市民ですが、県職員の現役の時から、主に印旛沼流域としての八千代市の調査等に関わって、八千代市とのお付き合いが続いています。

八千代市の環境が良くなるように、少しでもお手伝いできればと思い、委員をさせていただいております。よろしくお願いします。

谷合委員

谷合といいます。八千代市の環境審議会の委員もやらせていただいていますし、船橋市の環境審議会の委員もさせていただいています。コロナも終わり、いろんなことが動き出してきて、また、アメリカもトランプ政権になり、変動していくところで、この八千代市の環境政策がどう進んでいくかを一步引いたところから、見させていただければいいなと思っています。よろしくお願いします。

馬上委員

馬上丈司と申します。私も長らく委員を務めさせていただいております。もともとは千葉大学で教員をしておりまして、エネルギー政策、それから環境経済、環境政策を専門としております。

2030年、あるいはその先に向けたまちづくりの中での気候変動対策や脱炭素について、また、市内における都市部と農村部のいろいろな取組の差が生じてしまっている状態がある一方で、やはり環境という点でいえば、農村景観ですとか、農地というものを、100年、あるいはその先に向けてどう残していくかといったところも含めて、取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

風岡委員

風岡と申します。千葉県環境研究センター地質環境研究室の方におります。また、同時に東邦大学の理学部で地学を教えています。東邦大学の学生さんは自治体に就職される方が多いので、私が出来ることとしては、そういう学生さんを含む子供の教育だと考えています。現在、実際の自然を知らない子供たちが多いので、それをもう少し何とかして、将来、環境を担

っていく人たちが増えていくといいなと考えております。よろしくお願いします。

佐藤委員

農業委員をしております、佐藤と申します。農業委員の他に、千葉県のちば里山センターというところで、千葉県の林業政策、里山政策の方にも携わっています。県の方では、子供、幼児教育から森と関わるということが、推進されようとしておりますので、八千代でもそのような流れができるとありがたいなと思っております。よろしくお願いします。

春田委員

春田と申します。私は30年前県外からサラリーマンとして八千代市に入ってきました、ずっと長く八千代市でお世話になっています。非常に住みよい生活環境が整っておりまして、最高の場所だと思っています。最初は都心から近いということで八千代台に住んでいて、その後上高野に20年近く住んでいます。自然に恵まれて、都市の機能、教育環境、子育てが非常に整っておりまして、地域の皆さんとの交流も非常に盛んなところで、本当に住みやすいところかなと思います。もうすでにリタイアしておりますけども少しでもお役に立てればと思い、手を挙げた次第でございます。よろしくお願いします。

柏木委員

市民委員として参加させていただいています、柏木です。八千代に家を買ってからもう40、50年近くになりますが、その間、夫の転勤等で、外国に行ったり、アフリカに行ったり、いろいろなところに行って参りました。その中でも、自分の野菜を自分で作るということをやっと続けています。肥料はほとんど化学肥料を使わないで野菜を育てています。そんなわけで、環境にはものすごく、関心があります。先ほどもいろんなお話がありましたが、多くの子供たちが小さいうちから、里山や農業に触れられるように、微力ではありますがお手伝いできたならなと心から思っております。よろしくお願いいたします。

岡本委員

岡本哲夫と申します。前回に続いて、市民委員をさせていただいています。50年近く前に八千代市の勝田台に来ました。また、建設コンサルタント会社にずっと勤めていて、国土交通省系の河川局の災害関係をしていました。特に専門としていたのが氾濫解析や津波の遡上、被害の軽減対策等をプログラム化して、財務省に予算要求するための資料作り等をずっとやっていました。現在もプログラムの管理もしていますが、八千代市の勝田台地区の社会福祉協議会の勝田台支会というところで支会長をしていて、高齢者の対応や、小さな子供たちをこれからどういうふうに育てていくかについて関わる仕事を始めています。

都内から引っ越してきましたが、人生の中でほとんどが八千代市民なので、少しでも役に立てればという思いでやっております。よろしくお願いいたします。

橋本委員

橋本慎一郎と申します。八千代市の建設業協会の副会長をやっております。会社は八千代台北にあり、先代から50年以上建築の仕事をさせていただいております。資料を読んでもなかなか頭に入ってこないもので、自分も勉強しながら、皆さんに置いていかれないよう、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。

永瀬委員

永瀬良司と申します。八千代市の工業団体、工場の代表として選出されました。東洋佐々木ガラスという会社で生産本部長をしております。審議会に参加するのは初めてですが、微力ながらいろいろお手伝いさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

事務局（高倉環境政策課長）

皆さん、ありがとうございました。

ここで服部市長におかれましては、公務のため、退席をさせていただきます。
続きまして、事務局の職員紹介をさせていただきます。

--- 事務局職員の紹介 ---

事務局（高倉環境政策課長）

続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。

--- 資料の確認 ---

事務局（高倉環境政策課長）

それでは、次第に基づき、会長及び副会長の選出に移らせていただきます。議事の進行は、「八千代市環境審議会規則」第3条第1項の規定により、会長が行うことになっておりますが、本審議会は、昨年6月の改選後、初めての会議でありますことから、会長が選出されておられません。会長が選出されるまでの間、経済環境部長の加藤が仮議長として議事を進行させていただきますと存じますが、皆様よろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

事務局（高倉環境政策課長）

ありがとうございます。異議がないようですので、加藤経済環境部長、議事進行をよろしくをお願いいたします。

事務局（加藤経済環境部長）

それでは改めまして、私が仮議長として、議事進行をさせていただきます。よろしく申し上げます。それでは、「八千代市環境審議会規則」第2条第1項の規定により、「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。」となっておりますことから、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。はじめに、会長の選出を行います。どなたか推薦あるいは立候補はございませんでしょうか。

谷合委員

これまでの経緯もありますし、昨年の3月に答申を出していますので、取りまとめ担当していただきました前の会長でもある小倉さんを、今期も会長として推薦したいと思いますがいかがでしょうか。

事務局（加藤経済環境部長）

ただいま谷合委員から、小倉委員はいかがかという、ご推薦がありましたが皆様いかがでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

事務局（加藤経済環境部長）

ご異議なしということですので、小倉委員お引き受けいただけますでしょうか。

小倉委員

ご承認ありがとうございます。喜んで引き受けさせていただきます。

事務局（加藤経済環境部長）

ありがとうございます。それでは会長を小倉委員にお願いいたします。ご協力ありがとうございます。ありがとうございました。

これからの議事進行につきましては、「八千代市環境審議会規則」第3条第1項の規定に基づいて、小倉会長に務めていただきます。小倉会長、議長席に移動していただき、議事進行をお願いします。また、一言ご発言いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

小倉会長

改めまして、小倉でございます。私は千葉市民ですけれども、このような会議の場合、中の方たちだけでなく、外からの意見や見方も加えて、よりよい議事を進めていくのがいいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速、副会長の選出に進みます。「八千代市環境審議会規則」第2条第1項の規定に加え、同規則第2条第3項に、「副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。」と規定されておりますので、これから副会長をお選びいただきたいと思います。どなたか推薦してくださる方、あるいは立候補なさる方いらっしゃいますか。

佐藤委員

以前からご一緒させていただいております、谷合委員が副会長にふさわしいのではないかと思います。いかがでしょうか。

--- 拍手 ---

小倉会長

ありがとうございます。谷合委員、いかがでしょうか、お引き受けいただけますか。

谷合委員

はい、引き受けさせていただきます。よろしくお願いいたします。

小倉会長

ありがとうございます。では、前期に引き続き一緒にお願いいたします。一言よろしくお願いいたします。

谷合副会長

八千代市では、新しい計画が動いていくところではありますが、船橋市では、メディカルタウン構想の話など、いろいろな乱開発が進んでしまっています。廃棄物ヤードも市内で17ヶ所つくられているような状況で、少し古いタイプの環境汚染が広がっているようなところがありますので、八千代市がそういうふうにはならないようにしたいなと思っています。八千代市民ではないですが、そのような視点で、少し引いた形で、全体を見渡すような形で今後の審議会を進めさせていただけたらいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

小倉会長

ありがとうございます。

それでは、報告事項に入る前に、皆様にお諮りしたいと思います。

会議録の作り方ですが、要点記録方式により作成し、会議録署名人は、出席委員の中から、私が指名するお二人の方をお願いするということでよろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

小倉会長

ありがとうございます。それでは、会議録は要点記録方式により作成させていただきます。

会議録署名人は、柏木委員と春田委員にお願いしたいと思いますが、お引き受けいただけますか。

--- 柏木委員・春田委員 了承 ---

小倉会長

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

では、これから本題に入ります。今回は報告事項だけの会議になりますが、まず、「八千代市第3次環境保全計画の進行管理について」ということで、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局（斎藤主査補）

◆資料5-1「八千代市第3次環境保全計画の進行管理について」に沿って説明。

・「八千代市第3次環境保全計画」とは、本市の環境保全に対する総合的かつ長期的な施策・事業を示す計画のことで、「八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン」とは、「八千代市第3次環境保全計画」を推進するにあたり、同計画に記載された基本施策に基づく具体的な活動内容及びその担当課を明確化した計画。なお、同計画及びアクションプランは、昨年、令和6年3月に改訂版が作成されているが、その計画期間は令和6年度以降となっており、本日の説明は令和5年度実績までの進行管理となるため、改定前の同計画及びアクションプランに基づくものとなる。

・「1. 事業実績調査」について。今年度は、改定前の八千代市第3次環境保全計画前期アクションプランの計画期間である令和5年度実績について各事業の担当課に対して調査を行った。内容は、施策内容に関する調査と指標に関する調査の2種類に分かれている。

(1)「施策内容に関する調査」については、担当課ごとに施策内容について、「実施した」「一部実施した」「実施しなかった」の3段階で評価を記入し、その評価の理由や原因、今後の改善点・検討事項についても記載する調査となっている。また、基本方針や基本施策ごとの担当課の延べ数と評価、実施割合についてまとめた表を掲載。担当課の延べ数となっているのは、施策内容1つにつき複数の担当課があり、評価が違う場合があるため、このような形で集計している。八千代市第3次環境保全計画は5つの基本方針と、3つの重点プロジェクトが設定されており、各基本方針及びプロジェクトごとの実施状況について表に示している。全体の実施状況については、担当課の延べ数は500件、内、評価が「実施」は277件、「一部実施」は136件、「実施なし」は84件となっており、「実施」又は「一部実施」とされているものの割合が83%となった。今回の令和5年度実績について、令和4年度実績と比較すると、「実施」又は「一部実施」を合わせた割合は、両年度ともに83%と変化がなかったが、「実施」が20件増加、「一部実施」が11件減少となったので、内訳として、「一部実施」から「実施」へと進捗が見られた施策が多かったという結果になった。詳細は、資料5-2「令和6年度八千代市第3次環境保全計画前期アクションプランに関する調査結果」の「令和4年度実施結果」や「令和5年度実施結果」の列を参照。

(2)「指標に関する調査」については、八千代市第3次環境保全計画に掲載された37の指標について令和5年度の実績を調査。すでに目標を達成しているものが35%、目標達成に向けて進んでいるものが30%、数値が停滞しているものが6%、数値が後退しているものが24%となった。各指標の内容及び数値などの詳細については、資料5-3「令和6年度環境指標調査」を参照。結果について令和4年度の実績と比較すると、達成しているものが5%の増加、進んでいるものが5%の減少、停滞しているものが3%の増加、後退しているものが3%の増加となった。令和4年度実績では、調査時点では実績未確定となっていたものが8%を占めており、それが令和5年度の実績ではいずれかの評価に振り分けられたことなどが影響していると思われる。

・「2. 区域施策編の削減目標に対する現状」について。八千代市第3次環境保全計画に包含されている「八千代市地域温暖化対策実行計画（区域施策編）」の目標値に対する状況について記載。「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」とは、市域における温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画のことを指す。本資料の数値は、環境省が公表してい

る最新の自治体カルテの数値となるが、二酸化炭素の削減状況については、全体では平成25年度比で、令和3年度の排出量の割合は90.5%となっており、9.5%削減という結果となった。しかしながら、令和2年度削減率が15.7%だったことと比較すると、排出量が増加している結果となっており、要因として令和2年度から令和3年度にかけての新型コロナウイルス感染症による活動制限の緩和が考えられ、参考に令和元年度の削減率が6.9%と比較すると、排出量は減少傾向となっている。

小倉会長

ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明に関して、ご質問、ご意見をお出しください。

佐藤委員

事業実績調査の基本施策に対する担当課の延べ数を見ると、いろんな課が担当していると思いますが、それぞれの課の単独で評価しているのか、いろんな課が関わった状態で全体を評価しているのかを教えてください。おそらく判子が欲しいだけなら、各課に持っていけばもらえるし、各課にどうでしたかって聞けば、やりましたよってという回答になると思います。そうではなくて、1つのものを進めるのにこれだけの課が関わっているということは、実際に一同に集まって、一同で話をする機会が必要じゃないかなと思うのですがいかがでしょうか。

事務局（竹内副主幹）

この評価に関して、各担当課がバラバラに評価したものなのか、一同に会して評価したものなのかですが、これに関しては各課のそれぞれの回答をそのまま集約したものになります。

今ご指摘いただいたように、今回の結果に関して、直接的に庁内で図ることは今の時点では行っていないですが、庁内に環境問題連絡会議という部局間の会議がございますので、今いただいたご意見を参考に、そういった場で、こういったものを議論したり報告したりするなり、何かしらの形で対応は今後考えていきたいと思っています。

小倉会長

今ご報告があったのが令和5年度の結果ですが、令和6年度から新しい組織になって、温暖化対策を全庁的にみんなで一緒にやっていく体制を作ったと思いますので、来年度のこの会議では、ご指摘にあったような、みんな一緒にやっていくという結果が示されるのではないかと個人的に期待しております。

事務局（竹内副主幹）

会長がおっしゃられた通り、計画も今年度から変わって、体制も一部変わりました。今回は、去年の結果をまとめ、昨年と同じような形でご報告をさせていただいていますが、この形をそのまま踏襲するのではなく、何らかの形で、評価なりご報告できるように努めて参りたいと考えております。

谷合副会長

資料5-1の3頁についてです。この表の中の、産業部門と家庭部門に分けられている二酸化炭素排出量の削減の話ですが、2021年度、家庭部門は24.5%削減しており、2030年度の削減目標を見ると、家庭部門では79%削減が目標値として設定されています。これに対して、産業部門を見ると、コロナがあったとしても2021年度は1.6%の削減率であり、2030年度の削減目標を見ると、19%削減が目標値として設定されていますが、この目標設定値そのものはこのまま変えない予定でしょうか。

事務局（竹内副主幹）

ご指摘いただいた2030年度削減目標に関しては、国が示している部門別の削減量を参考に策定いたしました。その中で、昨年度この会議でも議論をさせていただきましたが、家庭部

門が約8割削減というのはなかなか厳しいのではないとか、産業部門が19%というのは気を使っているのではないかというような話もあったかと記憶しております。実際には、産業部門に関しては、国の数値より少し高めに設定しているところではあります。今現状として設定している削減目標は、参考と書かれている最新の数値の通りです。

今後、この目標値をどのようにするかに関しては、今後、計画の改定等が出てきた際に、再度見直しをするかどうかを含めて、議論をしていかなければいけないかと思いますが、もうすでに2025年というところまできて、あと5年しかないという中で、目標値の改定等ももちろん重要ではありますが、どちらかというと実際にこの数値を、どうやって達成していくかというところも踏まえた上で、施策の遂行とその目標値のバランスを考え、残された時間の中で達成できるように、努めて参りたいというふうに考えております。

谷合副会長

産業分野の方はもっと頑張れるよ、市内の企業はもっと頑張ってるよというところもあるかもしれません。また、実際に八千代市内に住んでいるご家庭の方が、5年後には8割二酸化炭素削減してくださいって言われて、どういうライフスタイルをイメージされるのかなと、私も5年後に8割減らしなさいって言われたら、ちょっと生活が成り立たないのではないかなと思うところもあります。

もちろんこれは目標で、それを達成するための道筋をこの審議会を通して発信していくことがすごく大事なところではありますので、市内でいろんなことを削減対策としてやっているところとか、いろんなアイデアはありますので、それを5年かけて普及啓発していくようなことも、この審議会に絡んで、必要になってくることかなという気がしています。

柏木委員

80%減らすためには、日々どれぐらいの努力が必要ですよという、そういう設定目標みたいなものを市民の人たちが知ることができる状態にさせていただかないと、私もこの表を見てもそれがどれほどのことであるのかわかりません。

自分も二酸化炭素削減についてはすごく考えて日々生活をしてしていますが、一人でも多くの方が、南極の氷が既に溶けてしまっているとかそういう現実を意識する必要があると思います。会議だけやるのではなく、どのぐらいのことを日々努力していけばいいのかを示していただけると、市民としてはすごく助かるし、これぐらい減らしていくためにみんなでこんな努力をしましょうという声かけもできるのではないかと思います。

小倉会長

1年前に、環境審議会でこの計画を全面的に賛成ということで、答申、諮問案を認めたわけではなかったわけです。計画をもっと噛み砕いたもの、私たち一人一人が何をすればいいのかというものを作って、具体的な呼びかけをすることが必要だという付帯事項をつけて、いわば条件つき賛成ということで計画を認めたということを思い出します。事務局の方では、それをぜひぜひ実行していただきたい。すぐにでも実行していただきたいと考えています。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

いわゆる市民啓発の部分っていうのは、非常に大事で、今年から新たに「ゼロカーボン新聞」に取り組んでおり、日常の生活で、こういうところに気をつけていただけると、CO₂の削減が図れるという情報発信をしております。広報のように、新聞に折り込むところまでは、予算の関係もありできていないので、まだ非常に行き渡っていないところもあると思います。ホームページやSNSなどではお伝えしていますが、もう少し工夫ができることがあれば工夫して、よりよくみられる形にしていきたいと思っています。

日常的な生活の中で、どうやってCO₂を削減していくのかというところは、ごみを減らすだとか、水道水をあまり使わないだとか、食品ロスを出さないだとかという、日常的な生活の無駄を省くだけで削減につながります。例えば、食品にしても、それを製造する工程でCO₂が発生しておりますので、食べ残して捨ててしまうと、それはCO₂だけ排出した形になり、なおかつ、それをまた廃棄物として処理するのに、燃料を使うことになるため、またCO₂が増えて

しめます。

ごみについては、八千代市の場合、プラスチックごみが可燃ごみとして処理でき、原料が石油系の資源でできているので、燃やしてしまうと、どんどんCO₂が増えてしまうようなことが起こります。その辺りは市の行政としても、廃棄物処理の担当の部署等と処理方法等をこれから考えていきます。

やっけていただいていると思いますが、ペットボトルを可燃ごみとしてではなく、資源ごみとして出していただいたり、日常の生活でプラスチックのごみが出ないようなものを比較して選んでもらったりだとか、家庭では、そういう小さなことをやるだけで削減につながりますので、その辺りを伝わりやすいような形で、お知らせしていければと思います。

柏木委員

現在、日本中で高齢化が進んでいて、私の家の周りも本当に高齢の方が多いです。そういう方達にも協力してもらうには、回覧板がいいと思います。回覧板を利用して、あなたがしているこんな行動によってこれだけのCO₂が排出されているだとか、CO₂削減のための対策だとかを伝えていただけたらと思います。そういった方法も考えていただきたいです。

佐藤委員

環境関係の展示会に行った際に、佐倉市でポケットサイズのゼロカーボンシティの冊子を配っていました。そのような、もっと手軽に見られるような媒体が必要ではないかと思っています。

岡本委員

回覧板の話がでましたが、自分が勝田台で活動している中で、自治会に入っている方が5割ほどしかおらず、回覧板を回しても、回らない人がたくさんいて非常に困っています。特に、高齢者の方はどんどんやめてしまっています。

勝田台には、50数年前の駅ができたときに入居した人がたくさんいて、その方たちが今、80、90歳になっています。先日、自治会で88歳以上の方にお祝い金を出そうとしたら、自治会の会員の方だけで、88歳以上の方が約260人いらっしゃいました。

現在活動していて1番困るのが、住民に対するいろいろな連絡で、10年ほど前は、回覧板でほとんどできていましたが、今はほとんどできなくなっています。回覧板を回しても、半分の方にしか回らず、また、外国の方がたくさん入ってきていて、回覧版の意味がわからず回覧板を回しても回らないという苦情まで出てきています。

そこで、どうしたら高齢者を含め、住んでいる方に情報が伝わるかということで、去年、秋祭りを開催した際に、小学校2校と中学校の生徒全員にお祭りのA4版のポスターを配りました。そうすると、子供たちがいる家はいいが、いない家もあるという苦情がでてきました。ただ、自治会に入っていない家庭にも情報が通じました。

現在、市民にどういう風に情報を伝えていくかが非常に難しくなっている時代だと思います。私が住んでいる自治会は電子回覧板を利用して、回覧板は一切使っていません。情報が全部スマホで見られるのですが、見ている人がどのくらいいるかはわかりません。市で月に2回出している広報も見の人が半分くらいになってしまったということも聞いています。このように、環境問題も含め、情報を伝えるのが本当に難しい時代になったと痛感しております。

今回CO₂の排出量の数字を見て一番感じるのは、市の全体の排出量の約半分を産業部門が占めており、そういったところの対応を含め、今後どのようにやっていくのがよいかを具体的にできればと思っています。もちろん、家庭部門も大事ですが、産業部門に関しても、事業代表の方もいらっしゃるのて、何か良い方向に進んだらいいなと感じております。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

行事等をお伝えするのも、本当に多種多様な方法をやっていかなければならない状況で、かなり手探りにありとあらゆることをやっています。

どういうふうにお伝えしていくかという課題もありますが、ゼロカーボンのことに関しては、家庭のところでは、例えば、80歳の方にももちろん頑張ってもらいたいが、これから劇的にCO₂を削減してくださいというのは難しい話だと思います。古いエアコンを最新式の

エアコンに取りかえるだけでもかなりの貢献になるので、そのように家電の買い替えやごみの減量など、身近なところでやっていただけるようなことを、もっとアピールしていければいいのかなと思っています。

目標だけ見ると、大変な数字を押し付けるような感じになっていますが、この数値は、計画を作ったときに、国が実現可能としていた数値を参考にしています。実態に即しているかについては、計画をたてなければ事業自体が進められなかったもので、早急に計画を立てた部分もあるため、先ほど副主幹からもあったように、今後見直しをする等で対応していきたいと思っています。

全体の潮流とすると、産業でいわゆるカーボンニュートラルを図るといような、経済を循環させながらカーボンニュートラル化を図るといようなことにもっと力を入れていこうと国は言っているので、事業者さんと連携をとりながらそういう機運を高めていって、なおかつ率先してカーボンニュートラル化を図っている事業者さんがあれば、そういったところを事例としてお伝えしながら、推進を促していけるようなことをこれからできたらいいのかなと思っています。

小倉会長

ありがとうございます。

次は、「八千代市環境経営レポート（令和5年度実績）について」のご報告をよろしく願います。

事務局（木下主事）

◆資料6「八千代市環境経営レポート（令和5年度実績）」に沿って説明。

- ・八千代市役所の事務事業における自らの環境負荷低減と地域の環境保全に向けた取組を継続的に実施するシステムの構築・運用を目的とし、市独自の環境マネジメントシステムである八千代市環境経営管理システムの運用が令和3年度より開始した。

- ・資料6 6頁、八千代市の地球温暖化防止に向けた目標は、二酸化炭素に換算した温室効果ガス総排出量を、6年間で基準年度である令和元年度比6%以上削減することを掲げている。令和6年3月に新たな八千代市地球温暖化対策実行計画事務事業編が策定されているが、計画期間は令和6年度からとなっており、今回は令和5年度実績のため、令和3年3月策定の前計画の目標をもとに説明する。

- ・資料6 7頁 表6、令和5年度は前年度と比較し、エネルギー使用量に増加傾向がみられ、灯油、A重油、LPG、水道使用量の4項目において目標を達成した。

- ・資料6 9頁 表8、基準年度の令和元年度51,746t-CO₂と比較し、令和5年度は43,964t-CO₂で、約15%の削減となり、削減目標値である6%削減を達成した。電気・燃料等エネルギー使用を起源としたCO₂排出量は、19,535t-CO₂であり、基準年度と比較すると、約12.5%減少した。一般廃棄物焼却量を起源としたCO₂排出量は、総排出量の5割以上を占める23,936t-CO₂であり、基準年度と比較すると、約16.3%減少した。

- ・資料6 9頁表9、令和5年度の八千代市のグリーン購入適合調達率は91%。

- ・資料6 10頁、毎年度、市全体の環境活動目標と部署ごとの業務に則した独自の環境活動目標をそれぞれ設定し、達成に向けた取組を実施している。表10で目標の達成状況が確認できる。

小倉会長

ありがとうございました。ただいまのご説明に対して、ご意見、ご質問をお願いいたします。

谷合副会長

資料5-3 環境指標調査の結果の13番、14番を見ると、廃棄物に関するところが基準年に比べてかなり増えてしまっています。また、11番の八千代市全体のリサイクル率は減ってしまっています。このことから、市としては頑張っていますが、八千代市全体を見ると廃棄物に関しては、かなり後退傾向にあると感じ取れます。

また、18番の公害の苦情件数も非常に増えていますし、28番、29番の緑地の面積もかなり減っています。

行政として頑張っている部分と、市全体としてはこういうところが強くてこういうところが弱いということについては、資料6と資料5-3を見比べるとわかると思います。

個人的には非常にうれしく思っているのは37番のCO₂CO₂スマート宣言事業所の登録数が63件と急増していることです。これは、市内の事業者さんもそれなりに環境に興味関心を持って、市の行政に関わろうとしてくれている様子が、この数字に表れてきていると思います。

永瀬委員

弊社はガラス会社ということで、珪砂や石灰等の非常に環境にいい素材を使っていますが、ガラスを溶かす際には、重油を使用しており非常にCO₂を出しています。

CO₂削減については、PPAやオンサイト、オフサイトも含めていろいろ考えているところではありますが、市としての工場への投げかけというところはあまり伝わってきていないと非常に感じています。

また、7頁の表6を見ると、A重油の使用量が非常に減っていますが、こういった取組をしたのか教えていただきたいです。

小倉会長

A重油も使用量が大きく減っているのと同時に非常に増えているものもあるので、こちらに対する理由も教えていただけますでしょうか。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

市としてやってきた業務の結果等を重ね合わせた、部署としての評価になりますが、電気の削減理由につきましては、使用量の25%を占める清掃センターの使用量が6%ほど減っていることと公園や新設・改修施設のLED化が影響していると分析しています。また、職員の節電に対する意識の強化から、電気をあまり使わないということ活動を目標として掲げて、実行している部署もございます。

灯油の削減理由につきましては、使用量の約3割を占めていた少年自然の家が廃止されているのが大きな要因ではないかということと、本庁舎や小中学校等で灯油ストーブの使用が減ってきていることが影響しているのではないかと分析しております。

A重油の削減理由につきましては、使用量の4割を占めていた村上調理場が、東八千代調理場として新設され、燃料としてA重油ではなく都市ガスを使うようになったことが理由であろうと分析しております。

LPGの削減理由につきましては、東消防署、村上調理場の新設に伴って、LPGから都市ガスに切り換えたということと、少年自然の家の廃止、使用量の2割を占めていた阿蘇小学校でLPGを使用しなくなったということが影響しているのではないかと分析しています。

ガソリンと軽油が増加している理由につきましては、公務の複雑化により公用車の利用が増えことが要因であると分析しております。こちらについては電気自動車を増やしていきたいと考えていますし、市の政策としても、電気自動車の使用率を高めていこうということで目標は定めています。

都市ガスの増加理由は、先ほどLPG等のところでお話したように、LPGから都市ガスにエネルギーの転換がなされていることで増加していると分析しております。

廃棄物の焼却量については、比較対象の時期がコロナウイルスの感染が拡大していた時期であり、一般廃棄物が断捨離等の影響で増えていたり、反対に事業系が減っていたりとうまく分析ができない時期なので、来年度動きを見て、より分析をしていきたいと考えています。

水道の使用量に関しましては、公共施設の廃止や改修など新しい施設には昨今節水型のトイレが増えてきていますので、そういったものが影響しているのではないかと考えています。

コピー用紙使用量、庁舎関係の廃棄物量につきましては、大きく変わっていません。

岡本委員

私の家でもトイレを変えただけで水道料金が半分になりました。
新しいトイレは水道使用量削減に対して、非常に効果的だと思います。

橋本委員

先ほど話があった、CO₂CO₂スマート宣言事業所について初めて知ったので、建設業協会に持ち帰って周知徹底していきたいと思っています。

建築、土木業をやっている建設業協会ですが、昔は、お金を払ってごみを持って行っていましたが、今は必ず分別しないと、持って行ってもらえない状況なので、それはいいことなのかと思っています。最初の頃は、分別する手間が非常に厄介でしたが、今となれば、そういうことが当たり前になっていく世の中がすごくいいなと思っています。

風岡委員

資料5-1の基本方針4番と5番の達成状況が低くなっていることと、資料5-3で緑地面積が減っているというところが気になります。

昨年の審議会でも話に上がりましたが、CO₂を吸収する緑地面積をどうやって増やしていくかについて皆さんで考えていく必要があると考えています。

私が水循環の状況について調べていく中で、湧水を増やすためには健全な森林が必要だというのがわかってきたので、健全な森林をもう少し増やしていければいいなと考えています。

また、水循環の中での子供たちの体験というのが、将来、環境問題に対して考える1つの礎にもなると思うので、4番の自然と触れ合う機会の創出といったところをもう少し私も協力できればいいなと思っています。

森林の面積が限られている八千代市では、企業の取組も重要であると思うので、企業の方で排出権取引のような取組があるのかを教えていただきたいです。千葉県内には、植林をする等の活動をされているところもあるので、そういった活動をCO₂削減に対する取組の1つとしてカウントできるといいなと考えております。

小倉会長

八千代市は都心に近い、でも緑が多い。でも緑が多いというのが街の価値を上げていると思います。CO₂の吸収源だけでなく、色んな面で見ても緑を増やすことは絶対必要なことだと思います。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

基本方針4番の「豊かな水・緑を保全し、自然と共生するまちづくりを進めます」というところの実施割合が低いのではないかというお話でしたが、この表は令和5年度の報告なので、まだコロナウイルスの影響があり、実施できないイベントがあったことが影響しています。

また、CO₂の吸収源として森林が必要だということは認識してはいますが、市としても、もっと環境保全の方に予算を割いていければとは思っていますが、子育て政策ですとか、古くなった公共施設の新設、改修等の事業もあり、環境側への予算の配分はかなり少なくなっていますので、引き続き、環境を守っていくことの重要性を庁内でも訴えていきたいと思っています。

排出取引等の取組が市内で行われているかどうかについては、現時点では状況把握ができておりませんが、事業者からも、事業者が行ったCO₂削減に対する取組の成果を市や他の事業者が買うというようなことを始められたらいいと思うという意見を頂いておりますので、市として現時点での実績はありませんが、情報収集に努めながら、知恵を絞ってまいりたいと思います。

岡本委員

昔自分が携わった事例を紹介させていただきます。東京都板橋区の不動産の滝が枯渇しているということで周辺の地下水調査を2年ほど行くと、周辺の畑が急激に開発され、宅地化されたことで、浅い層の地下水が相当減っていることが明確でした。そこで、新築と改築で建築許可を必要とする建物については全てに透水性の雨水浸透ますを付けるというような形に決めました。

このように、開発が進むことで、今まで地面に浸透していた水が下水に流れるようになってしまい、地下水が減少してしまったことへの対応として、出来るだけ水を下水に流すのではなく地面に浸透させるために、雨水浸透ますの設置の強制を行った事例があります。

特に八千代台や勝田台は関東ローム層がたくさんあるので、うまくやれば非常に浸透性を取り戻せる場所です。透水性舗装も1つの方法ではありますが、雨水浸透ますを設置するだけでもかなり地下水涵養につながります。

もちろん緑を増やすことも重要ですが、雨水浸透ますの設置について条例化することも1つの方法としていいのではないかと思います。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

里山保全について補足させていただきますと、緑を減らさずに守っていくために、何十年も熱心に活動している団体が8団体あります。そこで、市では、里山楽校を開催し、市民の方に里山保全について学んでいただき、里山保全の担い手を育成し、団体に属してもらっています。市民の方々にもぜひこのような活動に興味を持っていただき、緑を保全するために頑張っている団体を応援していただければありがたいと思っています。

佐藤委員

私は、10年以上八千代市内で里山活動をやっており、ちば里山センターというところで県内のいろんな団体とも関わりを持っています。

現在保全している森は50年ほど経っていて、木は病気になっているため、台風がくると折れてしまいます。その他にも、ここ3、4年でナラ枯れ病によりナラ、カシが枯れてしまいました。その原因として、もともと里山の木は100年も200年も生きる木ではないのに、樹齢が50年ほどになり、高齢の木が、ナラ枯れ病を媒介する虫を呼ぶフェロモンを出しているという話も聞きました。

そのようなこともあり、現在は処理できる木はどんどん処理をして、森を若返らせるという動きになっています。そのような活動をする際に、教育の現場と共用でやったり、さらにそこに企業も加わってくれたりすると非常に面白いのではないかと思います。

幼稚園生の時に、種まきから観察を始めて、小学校まで観察したら10年も観察できます。

今後、森を若返らせる動きが進んでいくと思いますので、このようなご提案をさせていただきました。

馬上委員

資料5-2の10頁、事業番号4-1-(1)-1のウの農政課の森林環境譲与税の活用状況をみると、毎年おそらく1000万円、2000万円ぐらいの財源が市に降りてきていると思いますが、それが基金にどんどん積み上がっていて、お金がある程度基金化されているような状況があります。先ほど伺ったような活動は、森林環境譲与税を使えない活動だということなのでしょうか。

事務局（石原経済環境部次長）

森林環境譲与税は、千葉県産等の木材を使った机や椅子を学校で買ったりということに使っている状況です。また、今農政課の方で、防災道の駅をリニューアルしようとしており、その一部に木材を使用していくので、今のところそのような形で、森林の保全というよりも、木材を使っていくという方向での使い方が多いという状況です。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

森林環境譲与税の使い方は、ここ1、2年で大分緩和されてきて、スタートした頃と比べると大分使いやすくなってきた印象があります。

八千代市では、森林環境譲与税の使い方として、市の公共施設で木材利用しましょうという木材利用方針はあるが、それ以外でどのように活動を図るかのガイドラインがまだできていない状態です。

既存の取組に充てるのではなく、発展型の保全活動に対して譲与税の使い方があり、今後ど

うしていこうか、里山保全活動をしている方々と今後議論していかなければならないと思っています。

過去に、枯死木の伐倒に譲与税を使った際に、会計検査において、枯死木の伐倒は森林の保全ではなく枯死木の処分であり、譲与税の使い方として不適切ではないかと指摘されたことがあり、そのような使い方はしてはいけなと認識していましたが、昨年度の取組の事例を見ると、ナラ枯れに譲与税を使っている事例があり、国としても地方に使い方を積極的に考えて使って欲しいという動きがあるため、市としてはどのように譲与税を利用していけばいいか考えている最中です。

そうは言いましても、里山は無くなってしまってからでは取り戻せないものですので、今から取り組まなければならないと思っています。八千代市の場合は、ほとんどは原生林ではないので、農業の振興も含めながら里山を保全していくような立ち位置で、住民活動も含めて、いろいろなことを繋げていくような形でやっていかなければならないと思っています。

来月開催するシンポジウム等をきっかけに、里山の活動や農業振興の方にも話を広げていければと思っていますので、よろしくお願いします。

春田委員

もともと八千代市には、市民の森があちこちにあり、自然が広がっていましたが、住宅の開発が進み、その自然も随分と狭くなりました。

開発された住宅街は30、40年経って、高齢化していき、空き家が老朽化して手つかずになっているところや、解体され空き地になっているところが目立ち始めてきています。その一方で、自分が住んでいる上高野では、住宅の周辺に残っていた畑が少しずつ住宅に変わり、人が入ってきたことで、道路が渋滞しやすくなっており、市内をみてもちぐはぐな状態になっています。

八千代市全体を見た場合、緑が丘などはまだまだ人口が外から入ってきて、都市化が進み、人口も増えていくと思いますが、それ以外のところでは、高齢化が進み、住宅街が廃れていくと思います。

昔作った八千代市の都市計画は定期的に見直されていると思いますが、もっと早いスピードで都市の老化現象は出てくると予想されますので、もう一度、住宅政策、緑地の政策等、いろんな都市計画そのものを見直し、その中で改めて、公園や緑について検討し直すということをしたほうがいいのではないかと考えます。

そのためには、環境保全の部署だけでなく、都市計画の部署も含めて、より総合的に、これから先の未来の八千代市都市計画を根本的に見直すようなことを考えた方がよいのではないかと考えております。

小倉会長

資料6の10頁に再生可能エネルギーの利用や省エネルギー設備の導入についていろいろ書かれていますが、新しい庁舎をどうするのが真っ先に来るべきではないかと思っています。

新庁舎の着工が遅れているようですが、その間に見直しなどをされていらっしゃるようなので、この機会にぜひ、ZEBということで市がお手本を示していただきたいです。そうしないと、これからの温暖化対策の説得力が弱くなってしまうと思いますので、ぜひご検討いただきたいと思いました。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

新庁舎建設は、今2030年に向けて進めているところですが、担当部署の方で既に基本設計を作ってしまったままです。ゼロカーボンシティ推進室からは、少しでも改善できないかという話を担当部署には話してはいますが、もう決まってしまう状況です。

ZEBに関してはZEB Readyで進め、太陽光パネルは40kWくらいのものをのせる方針で動いている状態です。また、駐車場にもっと再生可能エネルギーを導入できる可能性があるのですが、そこに関しては働きかけていかなければならないと考えています。また、太陽光パネルに関しても新しい技術が普及してきているので、新庁舎が出来上がった際には、そのような新しい技術を導入できるように、そのようなところに関して情報収集していき、新庁舎が出

来た後にも働きかけをしていきたいと考えております。

小倉会長

現時点では、ZEB Readyを目指すということですが、目標は高くZEBを目指した方がよいのではないのでしょうか。今おっしゃったように、刻々と新しい技術が出ておりますので、ZEB Ready以上とか、もう少し目標を高く掲げていただけたらいいかと思います。

事務局（加藤経済環境部長）

先ほど説明した通りZEB Readyで動いていますが、基本的に断熱、省エネルギー、再生可能エネルギーを取り入れるというのがZEBの考え方だと思いますのでそれがReadyなのか、Nearly ZEBなのかは段階があるにしろ、ZEBを目指すというところで動いていますので、ご期待に沿えればよろしいのかなと思うところでございます。

間違いなく、今の庁舎が変わって、環境にやさしい庁舎になりますので、ご理解いただければと思います。

皆さんのご意見も、必ず新庁舎の検討委員会の方につなげて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

岡本委員

雨水をトイレの水等に利用することについては検討されていますでしょうか。

事務局（加藤経済環境部長）

雨水が下水の方に急激に流れないように、駐車場の地下に貯留槽は設ける予定です。

岡本委員

配管の問題はありますが、屋根の水を貯めたものを、飲み水ではないトイレの水等に利用できたら水道量の節約になります。そういった形でもいろいろ出来ることがあります。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

雨水利用設備の設置について計画段階では検討していたと記憶しておりますが、それが実行されるかについてまでは把握できていないので、一度引き取らせていただいて確認させていただき、後日委員の皆様にご回答させていただければと思いますがよろしいでしょうか。

小倉会長

はい、よろしくお願いいたします

それでは、その他の報告事項を事務局さんの方からお願いします。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

◆当日配布資料「2050ゼロカーボン・ヤチヨ・シンポジウム」に沿って説明。

・2月8日（土）午後1時30分から、ゆりのき台のセントラルスポーツ生涯学習プラザ2階多目的ホールで、2050ゼロカーボン・ヤチヨ・シンポジウムを開催。

今回のシンポジウムは、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、専門家や企業等の関係者を招き、地域の脱炭素に関する講演や取組事例を紹介。その後、関係者の方々とパネルディスカッションを行い、全体を通じて、八千代市の地域脱炭素をどのように推進していくのか、いろいろな立場の方々と考える機会を得るために開催する。

初めに、八千代市の地域脱炭素の取組について市から概要説明。次に、工学博士で、特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所の主席研究員である松原弘直氏より、世界の脱炭素の情勢や八千代市の脱炭素ポテンシャルの可能性について講演。その次に、関係者の取組の事例紹介等を行い、パネルディスカッションを行う予定。なお、パネルディスカッションには当審議会の馬上委員が出席予定。

小倉会長

定員はありませんか。

事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

200人入る会場になっておりまして、会場には余裕があると思いますのでぜひお越しください。

小倉会長

大変良い取組だと思います。今回限りではなく、ぜひ、いろんな対象者向けに、いろんな形の啓発イベントをやっていただければいいと思います。

その他の報告事項をよろしくお願いいたします。

事務局（横井主任技師）

◆当日配布資料「令和6年版 八千代市の環境」に沿って説明。

・15頁の中段、市内の大気汚染状況のモニタリングについて、市内に大気汚染の測定局は全部で4局ある。その内の2局、旧米本南小学校内と勝田台小学校内に市が測定局を設置し、測定を継続してきたが、この2局については測定機器の老朽化が進み、機器の更新など今後の測定局のあり方について検討していた。この米本、勝田台の2局の他に、千葉県が管理している測定局として、南高津小学校内の高津測定局と独立行政法人水資源機構の敷地内の村上自動車排ガス測定局の2局がある。

16頁の中段「環境基準等の達成状況（令和5年度）」の表、国が定める環境基準との比較において、全国的に環境基準を超過している光化学オキシダントを除き、微小粒子状物質、いわゆるPM_{2.5}と呼ばれているものや、二酸化窒素などの項目において、環境基準を満たしており、経年変化を見ても、市内の大気環境は長年継続して、緩やかな改善傾向にある。

千葉県内全体で見た測定局の配置についても、八千代市以外の近隣市に置かれている測定局をもって、国の定めている県内全体の設置基準というのを満足する配置がなされている。

それらのことを踏まえ、令和7年3月31日、令和6年度末をもって、市が設置している米本測定局と勝田台測定局の2局については、廃止という形で決定。今後は、千葉県で管理している高津と村上の2つの測定局で、本市の大気環境のモニタリングを継続する。

小倉会長

特にご意見、ご質問はないようですので、このまま、計画通りに進めていただくということをお願いいたします。

それでは、進行を事務局にお返しします。ご協力ありがとうございました。

事務局（高倉環境政策課長）

小倉会長、議事の進行ありがとうございました。

本日、皆様からたくさんいただきましたご意見を参考に、今後の施策の推進をして参りたいと考えております。

また、頂いたご意見は環境政策課、ゼロカーボンシティ推進室だけでは推進ができないところを強く感じておりますので、庁内と連携をして推進をして参りたいと考えております。

また、質問で頂きました庁舎建設の状況につきましては、改めて皆さんにご報告したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、今年度の会議は本日をもって終了でございます。来年度の会議の日程等については未定でございます。開催通知につきましては、時期が近づいて参りましたら、送付させていただきますので、ご確認くださいようよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度第1回八千代市環境審議会を閉会いたします。